

令和8年 第14回総務経済常任委員会会議録

令和8年10月9日 議員控室

○報告事項

(1) 所管事務調査

①旧泊川小学校等（泊川集学校）無償貸付について（地域振興課）

②第3期八雲町総合計画策定について（政策推進課）

(2) 協議事項

(3) その他

○出席委員（6名）

副委員長 安 藤 辰 行 君
宮 本 雅 晴 君
三 澤 公 雄 君

水 野 博 美 君
横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君

○欠席委員（2名）

委員長 牧 野 仁 君

黒 島 竹 満 君

○出席委員外議員（4名）

斎 藤 實 君
倉 地 清 子 君

寺 田 広 樹 君
小 西 雄 一 君

○出席説明員（4名）

地域振興課長 田 村 春 夫 君
政策推進課長 宮 下 洋 平 君

まちづくり推進係長 佐 藤 尚 樹 君
企画係長 岡 島 孝 明 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

〔開会 午前 9時55分〕

◎ 開会・委員長挨拶

○副委員長（安藤辰行君） それでは、ちょっと時間早いんですけども、皆さんお集まりなので始めたいと思います。

これより、総務経済常任委員会を開催いたします。委員長挨拶とありますけれども、割愛させていただいて、すぐに議題に入りたいと思います。

◎ 報告事項

【地域振興課職員入室】

○副委員長（安藤辰行君） それでは、報告事項1番の旧泊川小学校等の無償貸付について、地域振興課よろしく願いいたします。

○地域振興課長（田村春夫君） 委員長、地域振興課長。

○副委員長（安藤辰行君） 地域振興課長。

○地域振興課長（田村春夫君） おはようございます。それでは、旧泊川小学校等の、現在泊川集学校として利用しておりますけれども、その無償貸付について説明したいと思います。本日は、私と佐藤係長でご説明したいと思います。それでは、座って説明させていただきます。

この集学校事業については、わたしのほうから説明するまでもなくですね、皆さんすでにいろいろとご承知かと思いますが、一応確認も含めて一通りお話ししたいと思います。

集学校事業については、パソコンなどの再生事業を行う、リングロー株式会社が主体となり、2017年4月から山形県舟形町の旧長沢小学校を無償貸与によりIT交流施設、長沢集学校として活用をスタートしております。

集学校とは、廃校を活用して再び人々の集う場所を目的とすると共に、IT機器を役立て地域の方々の暮らしを豊かにしたいと言う想いのもとに始動したものであり、IT交流施設プロジェクトであります。

また、事業拡大に伴い、2023年4月より一般社団法人おかえり集学校として法人化しております。

泊川集学校は、2021年1月から5年間、旧泊川小学校と旧教員住宅2棟を無償貸付し、4月プレオープン、7月に開校イベントをし、スタートしております。そのあと、各地域の方々が集まるようなイベントを開催し、令和6年度から8年度までの3か年で熊石地域デジタルリテラシー向上事業を行い、熊石地域5か所でスマホ相談、スマホ教室などを行い、携帯電話の扱いに不慣れな高齢者などから大変好評をいただいております。

また、携帯電話の操作などの相談は、随時、泊川集学校、それと、相談者の自宅に出向いて対応を行っているところです。八雲地域でも、SENTOで相談を行っているところであります。

現在の貸付期間が今年の12月で終了することから、12月定例会で来年1月から5年間の無償貸付の上程を行うこととしております。

相手方は、一般社団法人おかえり集学校、代表理事碓敏之で、貸付する施設は、現在貸付けている関内小学校教員住宅。こちらは、現在利用していないことから、旧泊川小学校と旧泊川小学校の校長住宅の2棟を貸し付けするものであります。以上で、説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○副委員長（安藤辰行君） はい、ありがとうございます。ただいま説明いただきましたけれども、これに対して質問ある方いますか。

○委員（赤井睦美君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 赤井さん。

○委員（赤井睦美君） 質問ではないんですけど、私も3回ぐらい学校に行かせていただきましたけど、無償貸与にはまったく賛成ですが、あまりにも寒くて冬は、ひどいんですよね。もうちょっと玄関を補修しろとは言いませんけれども、せめて1つの部屋だけでも、ちゃんとしてあげないと、冬はもうあそこには誰も行かないんじゃないかって心配するぐらいに、本当古いです。

だから、もうちょっとなんか。くまこう館に行ってすごく感じたの。同じなんか貸してるのに、くまこう館はとっても素敵に修理してて。それで、こっち来るとボロボロで寒いね。とっても冬なんか餅つき手伝いに行ったんだけど、もう子供もしか来ない。元気な子供しか。あと、お年寄りが寒くて誰も来ないんです。だから、もうちょっとなんか同じ無償対応なんだけども、ちょっとくらい改修してあげてほしい。大がかりじゃないですよ。寒くないようにしてあげてもいいんじゃないかと思うんですけど、相当熊石の皆さんも助かってますよね。いろんな面で。役場もそう思うんだけど、やっぱりせっかく来てくれたから、それぐらいはしてもいいんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○地域振興課長（田村春夫君） 委員長、地域振興課長。

○副委員長（安藤辰行君） 地域振興課長。

○地域振興課長（田村春夫君） この旧泊川小学校の貸し付けについては、貸し付け後の改修施設維持管理については、借受側のほうで改修するというふうなかたちになっております。

今後の部分も含めてですね、ただいまの意見をもとにちょっとまた検討したいと思いますので、一応貸し付けする段階では、そういう取り組みであったということでございますので、ご理解をお願いします。

○委員（赤井睦美君） それは、十分わかります。

○副委員長（安藤辰行君） 使っている人たちからの要望というのはいないんですか。いや、寒いとか。

○地域振興課長（田村春夫君） まあ、今現在の利用としては、ほとんど事務所程度で、あと地域のイベントっていうのは、ちょっと最近開催してございませんので、そういった話は事務局のほうには届いておりません。

ただ、やはり結構やっぱり寒いというかという部分はあろうかと思います。

○副委員長（安藤辰行君） 冬やらなければいいんだ、なんも。

○地域振興課長（田村春夫君） あと、施設の維持管理についても、基本的には上下水道とか電気料金。あとは、建物の修繕についても、一部、町でも負担しておりますけれども、基本的には、集学校さんのほうで負担していただくようなかたちで進めております。

○副委員長（安藤辰行君） 他にありませんか。

○委員（三澤公雄君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） 今の話でいくと、でも、暖房設備有りとは書いてあるでしょう。これ、貸し付け対象施設は。この灯油暖房 FF 式っていうのは使ってないの、冬るとき。使っても寒い。

○地域振興課長（田村春夫君） 使っております。

○副委員長（安藤辰行君） 使ってても大きいからだべさ。

○地域振興課長（田村春夫君） どうしても体育館とか広いところを使うようになると、やっぱり相当燃料費もかかりますので。

○副委員長（安藤辰行君） そうだね。

○委員（横田喜世志君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 横田さん。

○委員（横田喜世志君） 体育館は貸してないよね。地域の町民の人たちが使うことになってるんですよ。

○地域振興課長（田村春夫君） 委員長、地域振興課長。

○副委員長（安藤辰行君） 地域振興課長。

○地域振興課長（田村春夫君） どうしてもやっぱりイベント等やる場合、体育館については、泊川少年団の太鼓の練習。あと、前は、空手少年団も使ってたんですが、空手少年団の場合、今熊石総合センターのほうを活用しています。

それで、イベントをやる際に一部開校式とか、そういう時に体育館を使ったりしております。基本的には、貸付財産ということではございません。

○副委員長（安藤辰行君） 他にありません。三澤さん、いいの。

○委員（三澤公雄君） いいです。

○副委員長（安藤辰行君） 他になければよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） はい、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

【地域振興課職員退室】

【政策推進課職員入室】

○副委員長（安藤辰行君） それでは次に、第3期八雲町総合計画について、政策推進課、報告をお願いします。

○政策推進課長（宮下洋平君） 委員長、政策推進課長。

○副委員長（安藤辰行君） 政策推進課長。

○政策推進課長（宮下洋平君） おはようございます。令和 10 年から計画を進める予定でおります、第 3 期八雲町総合計画につきまして、その策定作業を令和 8 年度、9 年度で行うこととなっております。

これに関して、この進め方、策定方針等をご説明したいと思いますので、よろしく願いいたします。この後は、係長お願いします。

○企画係長（岡島孝明君） 委員長、企画係長。

○副委員長（安藤辰行君） 企画係長。

○企画係長（岡島孝明君） おはようございます。では、さっそく第 3 期八雲町総合計画について、ご説明いたします。資料 2 ページ目をお開き願います。

まず、この計画策定の趣旨でありますけれども、現在の第 2 期八雲町総合計画は、平成 29 年度に策定し、平成 30 年度から令和 9 年度の 10 年間の計画期間が満了となります。そこで、令和 10 年度以降のまちづくりの方向性を示す総合計画の策定に着手するものです。

近年は、人口減少や少子高齢化の進行に加え、担い手不足、自然災害の激甚化、DX や GX への対応、さらには公共施設の老朽化や厳しい財政運営など、八雲町を取り巻く環境が大きく変化しております。こうした課題に対応しながら、次の世代へ持続可能なまちを引き継いでいくため、新たなまちづくりの指針となる第 3 期総合計画を令和 8 年度から 9 年度の 2 か年で策定いたします。

総合計画は、八雲町における最上位計画であり、今後の行政運営や各分野別計画の基本となるものです。計画の構成は現行計画と同様に、基本構想、基本計画、実施計画の 3 層構造としております。

計画期間につきましては、令和 10 年度から令和 19 年度までの 10 年間を見据えた計画となります。基本構想では将来のまちの姿や重点的に取り組む施策を定め、基本計画では各分野の施策内容を整理します。さらに、実施計画において具体的な事業を年度ごとに整理し、毎年度見直しを行ってまいります。

資料 3 ページ目をお開きください。

資料中段の策定体制ですが、町が策定の基本的な方針を整理し、調査・分析などについて専門的な支援を受けながら進めてまいります。職員の参加として、各課ヒアリングを行い、施策評価シートに基づき行政側から見た成果・課題・今後の方向性を検討していきます。

次に、町民会議。愛称としましては、八雲まちづくり LABO と考えているんですけども、この会議への職員の参加であります。住民とともに議論していただき、まちづくりについて検討していただくこととしております。各分野担当職員の参加を予定しております。

また、トップヒアリングということで 10 月 7 日に実施済みですが町長、副町長にインタビューし今後のまちづくりの意向を伺ったところです。

4 ページ目をお開きください。

計画策定に当たっては、庁内での検討だけではなく、町民の皆さまの意見を幅広く反映することを重視しております。

まず、無作為抽出により、資料には 3,000 人を対象とした町民意識調査に加え、約 90 団体を対象とした団体アンケートを実施いたします。紙と Web の両方で回答できるようにしてございまして、できるだけ多くの意見を把握したいと考えております。

また、先ほど申し上げた町民会議では、保健・医療・福祉、教育・子育て、交流・連携・協働、社会生活基盤・自然環境、産業・雇用の5つの分野ごとに議論を行い、提案をいただく予定です。

さらに、地域懇談会や団体懇談会、中学生・高校生との懇談会も実施し、将来を担う若い世代を含め、幅広い年代や立場の方々の意見を計画へ反映してまいります。

なお、町民の参画からそれですけれども、上智大学との域学連携の中で先月9月12日に、上智大学生12名が、八雲町の魅力と町外の人に伝えたいこと、もったいない、改善できそうと感じたもの、自分自身が八雲町と関わるならということをテーマにグループディスカッションを実施していただき、様々な意見を町外の声として既にいただいたところです。

あわせて、八雲町総合開発委員会において計画策定の各段階で審議をいただきながら進めてまいります。

5ページ目をお開きください。

議員の皆様には、計画策定の進捗に合わせて報告をさせていただき、ご意見を伺いながら最終的には令和9年度のしかるべきタイミングで計画を上程させていただく予定です。

今後のスケジュールですが、令和8年度に現況分析やアンケート調査、各種懇談会を実施しながら基本構想の検討を進めていきます。令和9年度には基本計画の検討を進め、パブリックコメントや総合開発委員会での審議を経て、令和10年度からの計画スタートを目指しております。

繰り返しになりますが、議員の皆さまには、計画策定の進捗に応じて適宜ご報告し、ご意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○副委員長（安藤辰行君） はい、ありがとうございます。ただいま説明いただきましたけれども、質問や意見ありませんか。

○委員（赤井睦美君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 赤井さん。

○委員（赤井睦美君） 10年後のまちづくりを目指してつくっていくんですけども、その頃の主役って中高生ですね。

なのに、たった3回の話し合いでいいのかということ、やっぱり、中学生は中学生、高校生は高校生と話し合うのもいいんだけど、大人も交えて一緒に話していることも私はすごく大事じゃないかと思うので、とても時間がかかり大変なことだと思うけれども、やっぱり将来を担う若い人たちの意見をもっともっと引き出せるような環境を整えながらも、少し私は回数増やした方がいいんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○企画係長（岡島孝明君） 委員長、企画係長。

○副委員長（安藤辰行君） 企画係長。

○企画係長（岡島孝明君） まず、回数のところですけども、当初、我々といえますか。考えていたところでは、回数としては2回という回数を想定していたんですけども、それだと意見というか、準備も含めですね。あまり若い声が聞き出せないのではないかとということで、当初よりはプラス1回足しておりますけれども。

まあ、赤井委員おっしゃるとおり、3回も足りない。その回数なのか、質なのかっていうのもあるんですけども、そこについては、こちらとしては、まず3回をしっかりとやりながら、今後将来を担う若い声をしっかりと受け止めて、そのいただいた声をできるだけ計画に実際に反映しつつも、さらにその計画を動かす。若い声を計画に乗せて、それを実際に町政に動かすというところまでやりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員（赤井睦美君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 赤井さん。

○委員（赤井睦美君） 一応、かたちとしては、町民が主役で次世代のためにとって書いているのに、なんとなく役場中心にしか見えないので、中高生の意見、今までもたくさん聞いてきたと思うんですね。

それは、どこに活かされてるんだろうというのは私たち見えないし、それから質の問題ですよね、形式だったか会議で本当にその子たちがちゃんと出せるのかとか。それから話し合いする前に事前アンケートをこういうことを聞いてそれをもとに話し合うとか、やっぱりその質というか、内容をちゃんとしないと。

ある時の話し合いでは、まあ、町長も変わったからそんなことないと思いますけど、町長の思いがいっぱい高校生に伝えられて、高校生の思いを全く出せなかったという時間があったというのを聞いているので、やっぱり本当に思いをきちっと今急に集めて話したって、あんまり考えてないのに思い出せるわけないんですが、そこをちゃんといろいろ考えた上で出てこれるようになっていう工夫が必要だと思いますよ。

やっぱりその回数ではない。質だっていうのは、そのとおりなんですけど、その質もこういうところでもかしまって話したって、そんなにそんなに大人の前で悠々と話せる学生っていうのはまず少ないと思うし、もうちょっと考えてほしいなって、その辺は一回工夫してほしいと思います。

○政策推進課長（宮下洋平君） 委員長、政策課長。

○副委員長（安藤辰行君） 政策課長。

○政策推進課長（宮下洋平君） 今、赤井委員おっしゃったとおりですね。いきなり会議に参加していただいて、意見をもらうというのは、なかなか難しいものというふうにこちらも認識しておりますので、まずは集まる前に、前段にこういうことを聞きたいとか、こういった内容の趣旨ですと学校のほうに説明をしまして、今あえてありましたアンケート等も取り入れれば、そういったことも検討していきたいなと思います。

それで、それを持って集まったときに皆さん方の意見が出るようなかたちにできればいいなと思っておりますので、そういったところは工夫しながら、実施していきたいと思います。

○副委員長（安藤辰行君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） 他に。

○委員（三澤公雄君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） 今のに関連するんだけど、その取り組みは教育委員会のほうとは話し合っているの。

例えば、主権者教育だとか、この令和8年、9年のこの話し合いに向けて主権者教育が動いていけばね。何でもかんでも推進のほうでやらなくても、意味のある事業にもなると思うんだ。

そういった方針で、教育委員会にも取り組んでもらうっていうかたちにしてもらったほうが、いわゆる先ほど、補佐も言われた効果な部分、政策作りのところまで落とし込みたいということだって関わることになると思うんでね。そういうふうな教育委員会との連携ってとれているんでしょうか。

○政策推進課長（宮下洋平君） 委員長、政策課長。

○副委員長（安藤辰行君） 政策課長。

○政策推進課長（宮下洋平君） 教育委員会との関わりですけど、もちろん学校と私たちが直接お願いしますということは、もちろんしておりません。

教育委員会を通してこういったことをやるというようなことは伝えています。もちろん、できればですね、授業のこの懇談会の前にですね、授業か何かでこういったものを取り入れていただければよろしいでしょうけれども、ちょっとそこまで私どもが入れるところではありませんので、ちょっと教育委員会にもそういったところで一旦何か事前学習みたいなものができるのかどうかというところは一旦検討はしていただきたいな、というふうに、こちらからもお願いしたいなというふうには思っております。

○委員（三澤公雄君） はい。

○副委員長（安藤辰行君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） 総合計画もさ、結局ローリングで毎年見直すっていう部分があるので、今作るところは大事かもしれないけど、要するに、一学年、一学年関わっていけるっていうことも学校側にも教育委員会にも理解してもらって、意味のある主権者教育っていうかな、それにつなげていってもらえるような取り組みに、総合計画づくりがなっていけば、この八雲町もまた違った一面が出てくるのかなと思いますんで、お願いします。

○政策推進課長（宮下洋平君） 委員長、政策推進課長。

○副委員長（安藤辰行君） 政策推進課長。

○政策推進課長（宮下洋平君） 逆にですね、八雲小学校からですね。八雲町の人口減少に対しての勉強会とかですかですね。児童さんが知りたいことを聞くという授業がありまして、係長が先生として学校に行っているという取り組みをしております。

それで、総合計画だからということではなくて、もちろん私たちが学校に行って、ぜひこういうことを聞いてほしいということはもちろんですけども、学校側からも八雲町の産業とかそういう人口減少と将来どう考えているのかということを知りたいということも、何校かから来ておりますので、そういったところにももちろんこちらから出向いてですね、授業のかたちでやっていきたいなと思っております、これからもやっていきたいなというふうに思っております。

総合計画ができました、それで終わりました、だけではなくですね、今後も継続して続けるようなかたちにしていきたいなというふうに思っております。

○委員（三澤公雄君） ぜひ、点の取り組みではなくて、それを線にし、面につなげていくという考えで連携取ってやってください。お願いします。

○副委員長（安藤辰行君） 他にありませんか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） よろしいですか。ないですので、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

【政策推進課職員退室】

○副委員長（安藤辰行君） それでは、消防の前回委員会で協議した、消防の救急搬送件数とか、そういう資料について、皆さん見ていただいたと思うんですけども。これは委員会として、今後の対応について協議していきたいと思いますが、どうですか。

○委員（三澤公雄君） いや、僕はこれ読んでね、ギリギリでやってるってイメージを受けたんだよね。

○副委員長（安藤辰行君） 人数がかい。

○委員（三澤公雄君） たしか、決算委員会の中でも、定員に満たない人数でやってるし、非番の人を招集したりして。今回、この報告にあがってる7年度と8年度、たまたま重ならなかった。重なっても応援で対応できたってところで済んでいるけども、もし、そうじゃない事例があったときに失敗したで済まないんだよね。

そして今、病院特別委員会のとかやってるけどさ、病院がこれからどうなるのかってこともこの消防の緊急体制のあり方は、すごく大事なことだと思うんだよね。

要するに、今、町民が選びにくい病院にどんどんなっている。一番中心になる内科の医師も供給されないし、これからだって医師の供給が定着が進むという保証が何もない中で、病院事業を考えていくという時に、もうはっきり言って他の大きな病院に頼るっていう、この緊急体制の充実のほうが、要するに僕たちの努力っていうか、町の努力でなんとでもなるところなんでね、それをちょっと突きつけられたデータかなと思うんで。

まあ、これからの扱いというのは、このデータをどう生かしていくかと。この後、どういうふうに議論していくかっていう皆さんの思いがあるのかなと。僕はこれをてこにして、消防体制のさらに充実っていうことは意識していかなきゃいけないかなと思った数字でした。

○副委員長（安藤辰行君） ちょっと人数的な問題だね。

○委員（赤井睦美君） 現状、募集しても来ないという現状なんですか。ごめんなさいね。消防のところあまり見てない。

○副委員長（安藤辰行君） 消防の職員の関係は、やっぱり募集するというかさ。あれすれば来ると思うんだ。

○委員（赤井睦美君） ああ、そう。

○副委員長（安藤辰行君） 来る。そして、前は、救急救命士でないと採用できなかったんだけど、今は意外となんも免許なくても高卒でも入れるつけさ。採用してるしょ。だから、意外と広がったのは広がったんだ。だけど、掛け持ちする人いるつけさ。

要するに、函館地元の人が八雲と一緒に受けて、函館に入るとこっちに合格してるんだけど断るっていうのもある。その後に採用っていうのは難しいのさ。3人採用したんだけど、1人こっち行っちゃったとか。したら、2人しかいなくなるしょ。ただ、そうやって欠が出る場合もあるんだけど、なかなか難しいさね。

○委員（赤井睦美君） 今、三澤さんがおっしゃったように、よその病院にここには定員輸送は2名で出勤し、非番の人が2名。その時に看護師さんも行くとってなると、暇ってことは、お休みなわけでしょ。

○副委員長（安藤辰行君） そうそう。

○委員（赤井睦美君） 休んでいられないっていうことなんだよね。

○副委員長（安藤辰行君） 1日出て、2日休みでしょう。消防は。24時間体制だから。だから、まあ結局足りなくなるっていうかね。

○委員（赤井睦美君） こんな状況だったら、やっぱり断るよね。自分の体大事だし。

○副委員長（安藤辰行君） 下手すれば人数足りないっていうことは、救急車も足りなくなるっていうことだっけ。

○委員（赤井睦美君） ああ、そうか。

○副委員長（安藤辰行君） ね。今八雲に1台だっけ、2台だっけ。

○委員（三澤公雄君） いや、1台。

○副委員長（安藤辰行君） 八雲は1台でしょ。町病に1台でしょ、落部に1台。だから、減らすと八雲にもう1台とかってならなきゃね。重なった時とかさ、考えたら全然対応。まあ、落部からも来ることもあるし。

○委員（赤井睦美君） 八雲に1台増やすってことは職員が増えないと。

○副委員長（安藤辰行君） そうそう、できない。だって乗る人いないもん。運転手はいいのかわかんないけど、救急救命士も足りないかもしれない。なかなか難しいとこだわね。

○委員（水野博美君） わかんないんですけど。

○副委員長（安藤辰行君） はい。

○委員（水野博美君） 非番員って、もう最初からあなた待機ですよっていう非番員じゃなくて、待機する。例えば、助産師とかだったら、その日休みだけど待機ですよ。なんかあったら出て下さいっていう、そういう役割があるということですよね。

○副委員長（安藤辰行君） そうだね。

○委員（水野博美君） 非番だけでも、その役割を担っている。非番だからって誰でも呼ぶんじゃないくて、一応その役割も。

○副委員長（安藤辰行君） 非番の人はそうそうそう。そうだと思う。

○委員（水野博美君） なんか前ちょっと聞いたら、他の近隣町村よりは八雲町は、退職するとか、辞めていなくなるっていうのは少ないんだけど、全体的にやっぱり職員の人数は少なくないという話はちょっとしてました。

○副委員長（安藤辰行君） はい。

○委員（三澤公雄君） だって、決算委員会でも定員60名に何年か前55から60にしてもらったけど、現状は52人なんだもんな。

○委員（宮本雅晴君） 実質な。

○委員（三澤公雄君） だから、その背景は僕ら探っていないよね。その追加募集をする許可が下りないのかもしれないし、追加募集してても来ないのかもしれないし。

だから、そのギリギリで回しているという現状が仕方ないものなのか、努力すればというか、政策的にそこに集中すれば叶うものなのか。そのそのまで議論を決算委員会としてないから。

○委員（水野博美君） やっぱり大きいほうに行っちゃうって話をしました。

○副委員長（安藤辰行君） 再任用のね、関係もあるからさ。そのへんが何人くらい来ているからさ、あんまり来てないんだよね。確か。

○委員（宮本雅晴君） 今3人だ。

○副委員長（安藤辰行君） でしょ。だから少ないといえ少くないよね。いや、資格を持っている人ならね、なるべくなら救急救命士の資格持っていればさ、ある程度年いっててもね。いや、70も80もなつてればあれだけさ。でも70ならまだ若いと思うけどね。

○委員（赤井睦美君） 病院の搬送ならいいけど、災害起きた場合はもう行かないしょ。

（何か言う声あり）

○副委員長（安藤辰行君） それはね。

○委員（赤井睦美君） あ、やっぱりね、人口減少ここにも十分影響するんですよ。

○副委員長（安藤辰行君） まあ、職員もそうだし。まあ、一般の団員も少ないからさ。なかなか大変なんだ。もう少しこれ協議して。

○委員（赤井睦美君） さっき、三澤さんが言ったように、再募集できないのか、してもしても来ないのかっていうそのへんをちょっと。

○副委員長（安藤辰行君） そのへんをもう一回、消防にかけあつて調査する。

○委員（三澤公雄君） うん、調査してほしいですね。並行して動くのが財政健全化計画と思ったときに、町長というか、町長部局のほうで人を雇うってのがさ、相当な負担がかかるもんだから。でも、それを超えてやれる。僕らも政策判断をする材料がまだちょっとこれだけでは足りないし。

○副委員長（安藤辰行君） そうだね。まあ、毎年の採用の枠も少ないといえ少くないね。何人かずつしか。だから、ちょっと多めにかけてもらおうと思う。そのへんも、まあ、それができるかできないかはわからないけどもさ。そのへんの調査もしてもらおうということで。

○委員外議員（倉地清子君） いいですか。

○副委員長（安藤辰行君） 倉地さん、どうぞ。

○委員外議員（倉地清子君） 今いろいろ議論を聞きまして、職員の数が少ない。そして、人員が足りないという人手不足のことも注目されているけれど、逆の利用者さんのモラルっていうか、そういうのもありまして。

私、看護師をやった時代のことを踏まえると、軽症、重症の度合いっていうのがすごくごちゃごちゃしている利用の仕方が件数が増えているように思います。

なので、そちらのほうの方面も、ちょっとやるなら検証してもらって整理できればなと思います。職員の数だけではないような気はしました。もちろんあると思います。

○副委員長（安藤辰行君） 大したあれでないのに救急車を呼ぶとか、そういうことか。

○委員（三澤公雄君） 決算委員会で、救急出動の数と運ばれた人数の差で、そこを質疑してるけども、その時にそういったコンビニ受診というかなんかね、その発言が誰かからされるのかなと思ったし、答弁の中にもちょっと触れるかと思ったら、一切そこなかったね。

○副委員長（安藤辰行君） 出なかったね。

○委員（三澤公雄君） 運ぶ必要がない状況だったりとか、死んでる人もいたとかっていうことだったんで。

だから、僕はあの議論の段階では、もうそういう数は少ないのかなと、彼らの受け止め方として、そういうことで困ったってことがなかったのかなって、ちょっと思っちゃったりしたんだけど。そういう時に追っかけて追加で探してくれるのか。

○副委員長（安藤辰行君） そのへんも一応、聞くって言うかね。

○委員（三澤公雄君） いや、改めてね。

○副委員長（安藤辰行君） わかりました。はい。他にありませんか。

（「なし」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） まあ、今まで言ったようなかたちで、もう一回再度あれしてもらうということ、でよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） そしたら、消防の件はそれで。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） それではね、次に熊石のね、避難路の視察について。これね、平成 26 年に視察してるんですよ。田中さんいるときかな。確か行ったんですよ。

それで見てきたんですけど、まあ、今回も同じようなかたちでなるのかなと思ってるんですけど。まあ、視察するということで、まずは受け止めていいのかなと。

それで、行くとなれば、いつだったっけ。担当の地域振興課の都合というのがありまして、今月だと 20 日、21、22 が議長が不在。だから、20 日 21 日なんですよ。

○委員（三澤公雄君） どっちかってこと。

○副委員長（安藤辰行君） うん、どっちか。2 日も行かないって。

○委員（三澤公雄君） 俺 21 だったら遅い時間まで。

○副委員長（安藤辰行君） 21 はいいんだ。

○委員（三澤公雄君） 21、俺はですけど。

○副委員長（安藤辰行君） したら、21 にするか。20 日は、自衛隊のなんだからあったんだよな。

○委員（三澤公雄君） ああ、そう。

○副委員長（安藤辰行君） 21 にしますか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） よろしいですか。

○委員（赤井睦美君） 何時。

○副委員長（安藤辰行君） 時間は。聞かないとわかんないしょ。

○議会事務局次長（藤原悟史君） 午前でも午後でも。

○副委員長（安藤辰行君） 午後でも午前でも、どちらでもいいですか。

- 委員（三澤公雄君） どっちでも大丈夫。
- 副委員長（安藤辰行君） 何時がいいんですか。
- 委員（三澤公雄君） まだ天気予報が載ってないからな。
- 委員（赤井睦美君） 午前で終われるんだったら午前で。
- 委員（三澤公雄君） ああ、天気予報も今のところ、前後も雨のマークないからいいね。
- 副委員長（安藤辰行君） したら、午前に行って戻って帰ってくると。
- 委員（赤井睦美君） 大急ぎで。
- 委員（横田喜世志君） 3時間ぐらいで見終われるの。
- 委員（三澤公雄君） いや、結構。
- 副委員長（安藤辰行君） 端から端まで見るの。どうやったっけ。忘れちゃった。
- 議会事務局長（野口義人） 全部が全部じゃないです。ポイントポイントで地域振興課で目星付けて。
- 委員（三澤公雄君） 地域振興課で見てほしいところもあるだろうし、逆に、僕らも21日まで時間あるから、あそこを見ようとかっていうことをリストアップして。
- 委員（横田喜世志君） 前に見に行った後にさ、要は登るとこの手すり。
- 委員（三澤公雄君） 自分らでやるってな。
- 委員（横田喜世志君） 資材を供給してもらえれば、だとかっていう話が出てさ。
- 副委員長（安藤辰行君） 町内会でな。
- 委員（三澤公雄君） 進捗状況。
- 委員（横田喜世志君） やったのかどうかとか、その後の維持状況がどうなのかっていう検証も含めなきゃいけないよね。
- 委員（三澤公雄君） もちろんそうだね。向こうはそういう過去の記録残ってんのかな。担当課は。
- 議会事務局長（野口義人） 残ってますね。単管配分したりとか、設置した状況も分かっていますね。
- 副委員長（安藤辰行君） その辺を教えてもらえば。
- 委員（三澤公雄君） うん。
- 副委員長（安藤辰行君） だから、担当課に任せて。時間、午前中。
- 委員（赤井睦美君） 午前中で。
- 委員（宮本雅晴君） 午前から行ったほうがいいんでない。
- 委員（三澤公雄君） そうだね。
- 副委員長（安藤辰行君） 午前は何時。
- 委員（宮本雅晴君） 10時。
- 副委員長（安藤辰行君） 10時。
- 委員（横田喜世志君） 午前中に帰ろうって言うような人がいるんだけど。
- 委員（三澤公雄君） 午前中に帰りたいの。
- 委員（赤井睦美君） ここ9時出発にする。

（何か言う声あり）

○副委員長（安藤辰行君） こっから行くのに、9時でいいな。そして、あっち行って 10 時でしょ。

○委員（三澤公雄君） 9 時出発ね。

○委員（赤井睦美君） それで見て、帰ってくる。

○議会事務局長（野口義人） あと、一回行って地域振興課で総合支所の中で 30 分くらいの説明あると思うんですよ。まずはね。まずは、その後現地視察に行くと思うんで。

○副委員長（安藤辰行君） したら 1 時間以上かかるしょ。

○委員（宮本雅晴君） かかるな。

○副委員長（安藤辰行君） こっちから行ったって、9 時か 10 時でしょ。11 時半までかかってくる。11 時半で終われるのか。

○委員（三澤公雄君） 俺夕方までずっと空いてる。

○委員（宮本雅晴君） 2 時まででも 3 時まででもな。

○副委員長（安藤辰行君） とりあえず、昼まで終わってご飯食べて帰ってくると。

○委員（横田喜世志君） そしたら、8 時半出発。

○副委員長（安藤辰行君） もし時間かかったら、昼ちょこつと見るとか。ご飯食べさせるから。食い逃げはだめだ。食い逃げできるかもしれないけど。

そしたら、9 時出発だ。9 時出発でよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） では、熊石の件はこれで終わりたいと思います。まあ、今日の協議事項について協議するのか。今日は別に大したあれでないから。

○委員（赤井睦美君） なんか、総合計画でいつも町民主役って言うけど、中身は全部行政主体でなんか、やりましたっていうかたちだけが今回も感じられて、悲しいなと思いました。

○副委員長（安藤辰行君） 報告だからな。

○委員（三澤公雄君） 結局これもコンサル入るんでしょう。

○委員（赤井睦美君） 入るんじゃないかい、きっと。なんかコンサルの指導を受けてとか言ってた。

（何か言う声あり）

○委員（水野博美君） アンケート調査もできないって言ってました。

○副委員長（安藤辰行君） 協議事項、別にいいですか。

（「はい」という声あり）

○委員（赤井睦美君） これ議員って議会にはちゃんと報告してご意見いただきますとは言ってたけど、議員ってそんなどっかに入ってしゃべることできるんですか。

○委員（三澤公雄君） どっかに入って。

○委員（赤井睦美君） 報告する前に。

○委員（三澤公雄君） いや、嫌われるしょ、それは。でも、総合開発委員会とかはオープンだから聞きに行けるけれども、そこに参加したいっていうのは、向こうにとっては越権行為だろうし。

○副委員長（安藤辰行君） 無理だよな。

○委員（三澤公雄君） 役場にとっても議会には別なかたちで説明したいというのがあるんで。

○委員（赤井睦美君） 庁舎の説明会行っただけでも、嫌な顔してるもんね。

○委員（三澤公雄君） ポイント、ポイントで話せばいいと思うんだよ。自分がメインでしゃべろうと思う、まあ、佐藤智子さんみたいな例は、ちょっとまずいなど。

○委員（宮本雅晴君） あれは。

○委員（三澤公雄君） 例えば、やり取りがあらぬ方向に行った時にちょっと仲裁に入るみたいなかたちで意見をいうとかってというのが。

○委員（赤井睦美君） さっきの中高生の話もね、前にも何回か中学生、高校生の意見聞いてって言って、課長が係長になったときに何度かやってるんだけど、本当に形式的なこういうかたちで、緊張して意見出せないじゃないですか。学生って。

それはそれで、まちづくりなんて日頃考えてないのに言えって言ったって大変だからね、そういう雰囲気を作ってほしいっていうのでさ、なんかもう和ませようとして町長が一生懸命自分の意見言って終わっちゃったんだよね。そういうのを見てると、今の町長はそういうことないかもしれないけれども、もうちょっと工夫してほしいな。

○委員（三澤公雄君） その会議がぶっつけ本番じゃなくて、まあ、さっきも言ったように、授業の中でもそこに向けてみんなも考えようねっていう下地づくりをやっていく授業にすれば、その授業だって意味があることになると思うし。

総合計画に自分たちの意見が反映されたと。それがどういうふう to 実現するんだろうって注目してもらったら、本当に意味のある総合計画になるしさ。

○委員（赤井睦美君） 10 年後は彼らが主役だから。はい、すいません。

○副委員長（安藤辰行君） あと、他にないですか。

じゃあ、その他で事務局。

○議会事務局次長（藤原悟史君） 事務局から一点。次回の総務経済常任委員会の開催予定ですが、11 月 12 日木曜日 10 時からを予定していますので、よろしくお願いします。

○副委員長（安藤辰行君） ないようですので、これで終わりたいと思いますけど、よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○副委員長（安藤辰行君） はい。どうもありがとうございました。

〔閉会 午前 10 時 41 分〕